

能登半島地震・豪雨災害における スフィア基準に基づいた支援と受援：受援偏

○小浦 友行¹, 三浦 太郎², 原田 奈穂子³, 香田 将英⁴, 伊藤 竜彦⁵, 井垣 敦⁶, 大橋 博樹⁵
 1. ごちゃまるクリニック, 2. 富山市まちなか診療所, 3. 岡山大学学術研究院ヘルスシステム
 統合科学学域看護科学分野, 4. 岡山大学学術研究院医歯薬学域地域医療共育推進オフィス,
 5. 多摩ファミリークリニック, 6. 日本プライマリ・ケア連合学会

TAKE-HOME MESSAGE

CHS評価は支援・受援双方の認識ギャップを可視化し、災害医療支援の質向上に有効なツールである。組織間連携と中長期的支援計画は両者が共通して認識する課題である。定期的な相互評価を通じた継続的改善が効果的な災害支援の鍵となる。



1. 自らの権利を行使し、自分たちに影響を及ぼす活動や意思決定に参加できる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
1.1	多様性、公平性、包摂性の保証	N	Y	<
1.2	関連情報の定期的な共有	N	Y	<
1.3	適切なコミュニケーション	Y	Y	=
1.4	意味のある参加	Y	Y	=
1.5	情報発信における倫理性	Y	Y	=
1.6	一貫したアプローチの確立	N	N	=

支援者側 50% (3/6), 受援者側 83% (5/6)
 支援者は多様性の保証や定期的な情報共有の設計に関して課題を認識しているが、受援者側はこれらを評価している。



2. それぞれのニーズや優先順位に応じて、タイムリーで効果的な支援を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
2.1	地域の知識・能力の尊重	Y	Y	=
2.2	公平な基準による支援	Y	N	>
2.3	タイムリーな支援	Y	Y	=
2.4	技術的基準の活用	Y	Y	=
2.5	適切な技術的支援	Y	Y	=
2.6	一貫したアプローチの確立	Y	N	>

支援者側 100% (6/6), 受援者側 67% (4/6)
 「公平な基準による支援」および「一貫したアプローチの確立」について支援者側・受援者側との認識の差が見られる。



3. 今後起こり得る危機に対する準備ができ、回復力を高められる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
3.1	地域コミュニティの回復力向上	Y	Y	=
3.2	リスク予測と軽減	N	N	=
3.3	長期的な影響への配慮	N	Y	>
3.4	地域の主体性支援	Y	Y	=
3.5	一貫したアプローチの確立	Y	N	<

支援者側 60% (3/5), 受援者側 60% (3/5)
 全体の適合割合は同じだが、個別項目での評価が分かれている。



4. 人びとや環境に害を及ぼさない支援を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
4.1	悪影響の防止・軽減	Y	Y	=
4.2	環境への配慮	N	Y	<
4.3	データ管理の適切性	N	Y	<
4.4	安全性の確保	Y	Y	=
4.5	一貫したアプローチの確立	Y	N	>

支援者側 60% (3/5), 受援者側 80% (4/5)
 組織的な環境対応については支援者側がより高く、環境配慮と現地調達に関しては受援者側の評価がより高く評価している。



5. 懸念や苦情を安全に伝えることができ、対応を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
5.1	フィードバック方法の確立	Y	Y	=
5.2	行動規範の理解確認	N	Y	<
5.3	報告方法の理解確認	N	Y	<
5.4	苦情対応の適切性	N	Y	<
5.5	当事者中心のアプローチ	N	Y	<
5.6	一貫したアプローチの確立	Y	Y	=

支援者側 33% (2/6), 受援者側 100% (6/6)
 最も評価の差が大きい。支援者側は多くの課題を認識している。

背景

2024年1月1日に発生した能登半島地震および2024年9月の奥能登豪雨災害において、石川県輪島市のごちゃまるクリニックは被災医療機関として日本プライマリ・ケア連合学会災害支援プロジェクトからの支援を受け入れた。



6. 調整され、相互補完された支援を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
6.1	活動の調整	Y	Y	=
6.2	パートナー支援	Y	Y	=
6.3	関係性の評価	N	N	=
6.4	一貫したアプローチの確立	N	N	=

支援者側 50% (2/4), 受援者側 50% (2/4)
 パートナーシップと意思決定・資源共有の公平性に関しては両者とも課題として認識している。



7. フィードバックや学びに基づいて継続的に見直され、改善された支援を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
7.1	定期的なフィードバック	Y	Y	=
7.2	適切なデータ収集	Y	Y	=
7.3	データの活用	N	Y	>
7.4	学びの共有	Y	Y	=
7.5	一貫したアプローチの確立	Y	N	<

支援者側 80% (4/5), 受援者側 80% (4/5)
 全体の適合割合は同じだが、項目ごとの評価が異なる。データの活用は受援者側が高く評価し、組織的な学びのアプローチは支援者側が高く評価している。



8. 他者を尊重し、十分な能力があり、管理が行き届いた職員やボランティアから支援を受けられる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
8.1	質重視の組織文化	Y	Y	=
8.2	安全な活動環境	Y	Y	=
8.3	必要な支援体制	N	N	=
8.4	行動規範の遵守	Y	Y	=
8.5	報告者保護	Y	Y	=
8.6	不正行為への対応	Y	Y	=
8.7	一貫した人材管理	N	N	=

支援者側 71% (5/7), 受援者側 71% (5/7)
 評価が一致しており、支援人員の能力と管理に関する認識が共有されている。



9. 支援のための資源が倫理的かつ責任を持って管理されていると期待できる。

項目No	評価項目の要約	支援者	受援者	
9.1	十分な能力・資源の確保	Y	Y	=
9.2	資金の責任ある管理	Y	N	<
9.3	倫理的な資源配分	Y	Y	=
9.4	環境負荷の最小化	N	Y	>
9.5	リスク管理	Y	Y	=
9.6	一貫したアプローチの確立	Y	Y	=

支援者側 83% (5/6), 受援者側 83% (5/6)
 全体の適合割合は同じだが、項目ごとの評価が一部異なる。

全体の適合割合

支援者側 66% (33/50)
 受援者側 76% (38/50)

方法

スフィア基準内のCHSに含まれる9つのコミットメント、50の要件項目について、支援者側と受援者側が独立して「Y (適合)」または「N (不適合)」の2段階で評価を行った。両災害を通じての支援活動全体を評価した。

COI開示：
 筆頭演者、共同演者において、開示すべき利益相反 (COI) はありません

謝辞：
 令和6年能登半島地震と奥能登豪雨で亡くなられた方への哀悼の意と、影響を受けた全ての方に心からのお見舞いを申し上げます。また、日本プライマリ・ケア連合学会の災害支援を受け入れてくださいました石川県および輪島市の関係者の皆様のご理解とご協力に、心から感謝申し上げます。



活動報告書



スフィア基準



CHS